

今日の説教のポイント <マタイによる福音書 12 章 33～37 節>

①単なる道徳的教えではない。この教えの語り手が鍵！

この箇所は真面目な人ほど、「語る言葉に気をつけよ」、との道徳的な教えを聞き取るでしょう。しかし、これを語られたイエス・キリスト抜きでそういうことを考えても、ここを読んだことにはなりません。33～34 節では、心で悪いことを考えるファリサイ人のことが考えられています。35 節では、「良い倉」はイエス様、「悪い倉」はファリサイ人の心の中を考えたらいいでしょう。36～37 節は、イエス様の救いを知った後の人にあてはめて考えてみるといいでしょう。

道徳的教えは、ただ私たちが思うこと・やることの善悪を問います。イエス様の教えはそうではありません。イエス様が成し遂げて下さったことの意味を考えながら自分の姿も考えなさい、と呼びかけられているのです。イエス様を私たちの生き方に含み入れて考える。これが大事な点です。単なる道徳的な教えとは違う所以です。

②「つまらない言葉」(36)＝他者への愛に欠けた言葉。

「人は自分の話したつまらない言葉についてもすべて、裁きの日には責任を問われる」(36)。「つまらない」と訳された言葉の原語は、「仕事をしない、怠惰な、役に立たない」という意味のギリシア語です(20:6 の「何もしないで」)。では、イエス様が教えられた一番「つまらない」行為とは何だったでしょう？ 働かないこと？ 怠惰？ 役立たず？ いいえ、「他者への愛に欠けた言動」です。イエス様を通して神様の赦しの愛を知った者が、その後も他者を平気で傷つけるような言動をするなら、それが一番「つまらない」ことであり、裁きの日にはその責任が問われても仕方のない気がします。

③他者への愛に欠けた者とは誰？ その者になお注がれる神の愛！

皆さんは、「私は大丈夫。愛に満ちている」と思いましたか？ そんな人はいないはずです。では、終わりの日に裁かれるのでしょうか？ どうしたらいいのでしょうか？ 「罪深いこんな私を赦すために、神様は御子をお送り下さったのだ」、と改めて覚え直すことです。神様はそれを受け入れて下さるお方なのです。なんと深い赦しの愛でしょう。この神様を見上げて生きて行こうではありませんか！